

エピペンを用いたアナフィラキシー対応について

1. エピペン(アドレナリン自己注射薬)を所持している人が、アナフィラキシー(重症のアレルギー反応)を発症した場合、その人はエピペンを自ら注射して対応します。授業中やキャンパス内でそのような場面に居合わせた人は、下記のような支援を行ってください。

- ① 症状の進行具合等によっては、エピペン所持者(*)自身で注射ができない場合もあり得ます。そのような場合は、居合わせた人が本人の代わりに注射をしてあげてください。
- ② エピペン注射で症状は著しく改善しますが、その後の処置も必要となるため救急車(119)を呼んでください。

* その人がエピペン所持者であることを明示できない(意思表示が困難な)場合は、その人がエピペンを握っている、身辺にエピペンが落ちている、(エピペンを求めて)カバンの中を捜そうとしている、などの状況により判断します。

2. エピペン(右図)は青色の安全キャップを外し、橙色の先端部分を太腿のやや外側の皮膚に垂直に「カチッ」と音がするまで押しつけ(服の上からも可)、5秒ほど保持します。注射後にエピペンを抜くと、針先は自動でカバー内に納まります。



※エピペンの使用方法は、以下のHP(QRコード)の動画で事前に確認してください。(「VIATRIS」HP参照)

<https://www.epipen.jp/howto-epipen/material.html>



3. 詳しくは、キャンパスライフ・健康支援センターHP(QRコード)の資料をご参照ください。

<https://www.chc.kyushu-u.ac.jp/~webpage/pdf/211118.pdf>

